

6. 相手国の教育・研究の向上への支援・貢献

教育面での交流成果

本プログラムと関連して、当研究所では積極的に研究者、留学生を受け入れてきた。その結果、2005年度までに日本政府国費外国人留学生4名（拠点事業枠）、論博研究者3名に京都大学から農学博士の学位が授与された。現在、拠点事業で受け入れた3名の博士課程国費外国人留学生が当研究所に在籍している。博士号を取得して帰国したこれらの留学生のすべては、現在拠点大学交流事業のメンバーであり、共同研究の推進に精力的に取り組んでいる。その一方で、学位取得者がインドネシアに帰国後、インドネシアのさまざまな大学から日本への留学希望者が増加しており、国費外国人留学生拠点事業枠のみならず、大使館推薦、大学推薦（一般枠）においても積極的に受入れを行っている。また、本事業での交流がきっかけとなり、協力大学へ受入れたケースもみられた。これは日本での留学が高く評価されていることの現れでもあり、日本が優秀な留学生をひきつけるという意味でも成果があったといえるであろう。

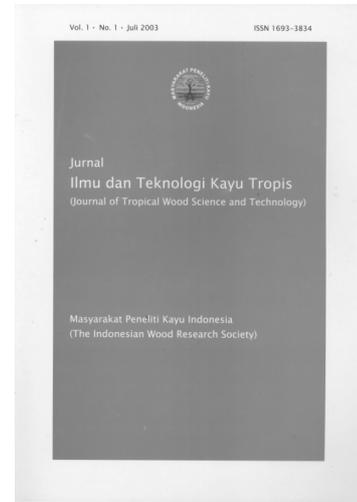
(参考) 大学推薦による国費外国人留学生（拠点大学枠）

採用期間	氏名	受入教員	所属・職 (留学前)	所属・職 (留学後)
1996/10/1~ 2000/3/31	HERMAWAN, DEDE	川井秀一 教授	Lecturer/ Bogor Agricultural University	Lecturer and Researcher/ Bogor Agricultural University
1998/10/1~ 2002/3/31	MUNIR, ERMAN	島田幹夫 教授	Lecturer/ University of North Sumatra	Lecturer/ University of North Sumatra
1999/10/1~ 2003/3/31	MUIN, MUSRIZAL	角田邦夫 助教授	Teaching Staff/ Hasanuddin University	Lecturer/ Hasanuddin University
2000/10/1~ 2004/3/31	MASHUDI, NOOR RAHMAWATI	渡邊隆司 教授	Lecturer/ University of Winaya Mukti	Lecturer/ University of Winaya Mukti
2001/10/1~ 2005/3/31	AMIRTA, RUDIANTO	渡邊隆司 教授	Lecturer/ Mulawarman University	Lecturer/ Mulawarman University
2003/10/1~	INDRAYANI, YULIATI	吉村剛 助教授	Lecturer/ Tanjungpura University	
2004/10/1~	MUNAWAR, SASA, SOFYAN	川井秀一 教授	Researcher/ R&D Unit for Biomaterials - LIPI	
2005/10/1~	JOKO, SULISTYO	今村祐嗣 教授	Lecturer/ Gadjah Mada University	

インドネシアにおける研究環境向上への貢献

インドネシアでの教育・研究への波及効果として、“インドネシア木質科学学会の創設”と、“Research and Development Unit for Biomaterials, LIPI”の設置”をあげることができる。まず、“インドネシア木質科学学会”の会員数は創設時 30 名から現在 200 名以上へと増加しており、インドネシアにおけるこの学会の重要性が読み取れる。また、同学会は、学会誌“Journal of Tropical Wood Science and Technology”を 2003 年度に発刊している。創刊号の表紙を以下に示す。

一方“Research and Development Unit for Biomaterials, LIPI”は、LIPI 内に設けられていた R & D Center for Applied Physics の木質科学関連の研究者がまとまって、新たに生物材料とくに木質関連の研究所として 2003 年に設置されたものである。この研究ユニットの設立は、本プログラムによる研究成果がインドネシア政府に高く評価されたことを示している。



インドネシア木材学会誌
**Journal of Tropical Wood Science and
Technology**
創刊号

[目次にもどる](#)

サテライトオフィスの設置

過去9年間の実績を踏まえ、当該分野の一層の展開をめざし、当研究所はLIPIのご協力を得、ボゴール市郊外チビノンにある Research and Development Unit for Biomaterials, LIPI に、平成17年2月、サテライトオフィスを開設した。サテライトオフィスは、60平方メートルの広さで、同事業の学術情報交換により整備してきたライブラリーや同事業の研究成果の展示を行うとともに、日本人研究者の研究・実験室として利用するなど国際学術交流の有機的な連携機能を備えている。今後は、インドネシア国内における熱帯森林資源の俯瞰的広域国際共同研究の拠点、ならびに日本国内からの出前講義や分析・解析・計測などの実習を実施する国際教育拠点、スマトラやカリマンタンで実施しているアカシアマンギウムの生産と利用に関する研究や、ジャワ及び周辺諸島で行なっているシロアリ行動生態などのフィールド研究のデータ集積・解析拠点として機能させる予定である。なお、サテライトオフィスの開所式の模様を、次ページに示す。

京都大学生存圏研究所
 サテライトオフィス
 (インドネシア科学院生物材料研究ユニット)
 日本学術振興会拠点校事業(木質科学)

開所式

(平成17年2月25日)於チビノン、インドネシア



サテライトオフィス開所式で挨拶する
 インドネシア科学院長官 ウマル・
 アンガラ・ジェニー教授



サテライトオフィスの看板



サテライトオフィス内の様子



サテライトオフィス前での記念写真
 左よりバンバン・スピヤント 生物材料研究ユニット
 所長、ひとりおいてインドネシア側コーディネーター
 エンダン・スカラ博士、インドネシア科学院長官 ウ
 マール・アンガラ・ジェニー教授、日本側コーディネ
 ーター 今村教授



サテライトオフィス開所式の歓迎花看板

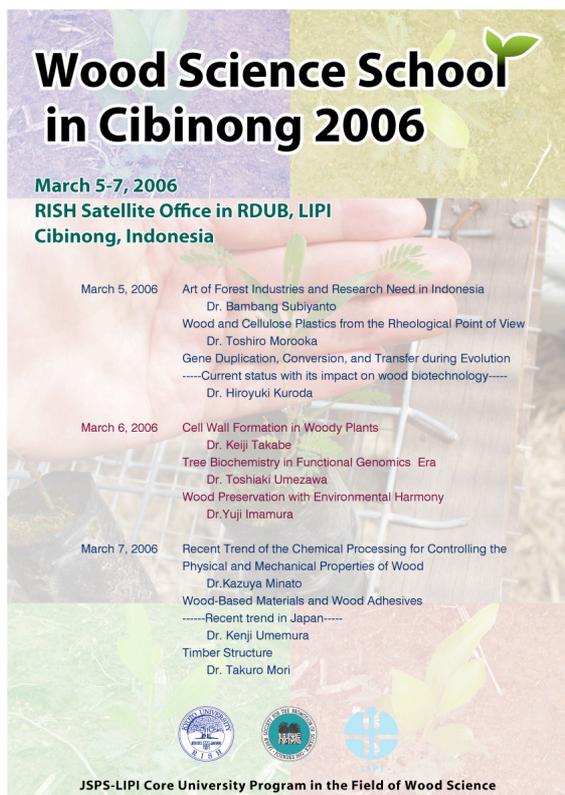


サテライトオフィスが設置されているインドネシ
 ア科学院生物材料研究ユニット(チビノン、イン
 ドネシア)

スプリングスクール（現地講義）の実施

過去10年間の実績を踏まえ、本拠点校事業で得られた成果を社会に還元するため、2006年3月5日～7日の3日間にわたり、LIPIと生存圏研究所の共催で、インドネシアの若手研究者を対象にインドネシア科学院生物材料研究センター（インドネシア・チビノン）において、「Wood Science School in Cibinong 2006」と題する現地講義を開催した。日本側研究者8名、インドネシア側研究者1名の講師によって、木質科学に関する基礎研究から先端研究までの最新の研究テーマについて、特に熱帯資源の持続的な生産・利用に焦点をあてて、受講者の幅広い要望に応える内容とした。受講者としては、スマトラ、カリマンタン、さらにはパプアなどインドネシア国内の各地域から60名の参加があり、熱心な聴講と活発な質疑応答が実施され大変盛況であった。また、講師である日本側研究者8名の内、若手研究者である助手を数名参加させ、海外での講義を経験させることによって、国際的見地からの研究者としての資質向上という目標も同時に達成できた。

今回のスプリングスクールは、本拠点大学交流事業で初めての現地出張講義であったが、大変好評で、継続が強く望まれた。特に今回は比較的絞り込んだテーマに関する講義が主であったが、次回は異なるテーマやより包括的な講義を行ってほしい旨の要望が寄せられた。



**Wood Science School
in Cibinong 2006**

March 5-7, 2006
RISH Satellite Office in RDUB, LIPI
Cibinong, Indonesia

March 5, 2006 Art of Forest Industries and Research Need in Indonesia
Dr. Bambang Subiyanto
Wood and Cellulose Plastics from the Rheological Point of View
Dr. Toshiro Morooka
Gene Duplication, Conversion, and Transfer during Evolution
-----Current status with its impact on wood biotechnology-----
Dr. Hiroyuki Kuroda

March 6, 2006 Cell Wall Formation in Woody Plants
Dr. Keiji Takabe
Tree Biochemistry in Functional Genomics Era
Dr. Toshiaki Umezawa
Wood Preservation with Environmental Harmony
Dr. Yuji Imamura

March 7, 2006 Recent Trend of the Chemical Processing for Controlling the
Physical and Mechanical Properties of Wood
Dr. Kazuya Minato
Wood-Based Materials and Wood Adhesives
-----Recent trend in Japan-----
Dr. Kenji Umemura
Timber Structure
Dr. Takuro Mori

JSPS-LIPI Core University Program in the Field of Wood Science

Wood Science School in Cibinong 2006 (平成18年3月5～7日) 於チビノン、インドネシア



全員集合写真



開校式で挨拶するエンダン・ス
カラ L I P I 生命科学部門長
(左) と今村生存研教授



講師陣
左上より、バンバン・スピヤント、高
部、黒田、今村、梅澤、左下より、
森、湊、師岡、梅村各博士



講義風景



延々と続いた活発な質疑応答



バンケット
大ダンスパーティとなった



閉校式
日本人講師への
記念品贈呈



京都大学-LIPI 学術交流協定の締結

本プログラムと関連して、当研究所では、LIPI 内の部局と学術交流協定を締結してきた。すなわち、平成 11 年には LIPI 応用物理学研究センター（現生物材料研究センター）と、引き続き、平成 16 年には生物材料研究センターとの間で、MOU（協定内容、学術交流協定）を締結した。また、平成 17 年には、LIPI 生物材料研究センターおよび PT Musi Hutan Persada 社の三者で MOU（協定内容、研究協定）を締結し、人的ネットワークの構築と、共同研究の一層の推進を図ってきた。

京都大学では、当研究所以外にも、東南アジア研究所を始めとして LIPI と学術交流を独自に進めている部局が多数存在するので、京都大学と LIPI の学術交流の一層の進展を図るべく、平成 18 年 3 月 17 日に大学間学術交流協定が締結されました。本協定は、自然科学から社会科学までの幅広い研究交流・人的交流・情報交換を含む、包括的な協定であり、将来、学際的な共同研究に進展することが期待される。

なお、京都大学は、現在、海外の大学と 69 件の大学間学術交流協定を締結しているが、LIPI のような高等研究機関と協定を締結するのは、今回が初めてのことで、学内ニュースはもちろん産経新聞や京都新聞などの一般紙でも取り上げられた。



調印後握手を交わす尾池和夫京大総長
（左）とウマール・アンガラ・ジェニー
インドネシア科学院長官



記念写真